

巻頭言

大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科 学科主任

森田 恵子

2024年1月1日、皆様はどのように過ごされていたのでしょうか。おそらく、ゆったりとした時を過ごされていた方が多かったことと思います。しかし、能登半島地震の発生は正月気分を一掃するとともに、自然の厳しさ、生命の尊さ、医療職者の果たす役割の大きさを年頭から痛いほど思い知られる機会となりました。ウクライナを始めとする長引く国際的な紛争、頻発する災害を通し、国際看護、災害看護、本学の特徴である地域における包括的なケアの必要性は益々重要視されることと思います。また、生成AIの進化は学修・研究活動にも大きな影響を及ぼし、私達には常に最新の知識や技術を学び続ける姿勢を求められています。人の生命や健康に関わる医療職者を目指す学生と教員の皆様には、不断の学修および研究活動を通し、培われたその能力をあまねく発揮して頂き、今後益々地域を支える専門職者・研究者として役割を果たして下さることを切に願うばかりです。

さて、この度、本誌6号が発刊される運びとなりましたが、看護学科学学生・教員の研究に対する好奇心や関心、学会運営委員の忍耐強い活動に支えられた結果であると感じ、感謝申し上げます。私達の日々の学習、教育、研究の根底には、飽くなき知的好奇心と日々の忍耐強い学習・研究活動が支えとなっています。大東看護学会の更なる成長と本誌の永きに渡る益々の発展を願い、巻頭言とします。

2024年吉日